



# おくすり通信

No. 68 漢方薬

こんにちは、薬剤科です。今回は漢方薬についてです。漢方薬のイメージとして、食前に服用する、時間をかけて効果が出る、といったものがあると思いますが、実際はどのようなのでしょうか？

## 《漢方薬・生薬とは》

漢方薬とは、漢方医学に基づき、生薬（植物、鉱物、動物で薬効があるとされる部分を加工したもの）を2種類以上組み合わせた薬のことです。複数の成分が含まれるため、1つの漢方薬を複数の症状に対して使用することができます。

	生薬名	使用される部分	主な成分
植物	マオウ（麻黄）	麻黄の地上茎	エフェドリン
	カンゾウ（甘草）	甘草の根及びストロンを乾燥したもので、時には周皮を除いたもの	グリチルリチン酸
	シャクヤク（芍薬）	芍薬の根	ペオニフロリン
	ショウキョウ（生姜）	生姜の根茎	ショーガオール
鉱物	セッコウ（石膏）	天然の含水硫酸カルシウム	含水硫酸カルシウム
動物	リュウコツ（竜骨）	大型哺乳動物の化石化した骨	炭酸カルシウム、リン酸カルシウム
	アキョウ（阿膠）	ロバの毛を去った皮、骨、腱、靭帯	コラーゲン

## 《服用タイミング》

漢方薬の服用タイミングは食前または食後です。漢方薬の成分には配糖体と呼ばれる、有効成分に糖が結合したものが多く、これらは腸内細菌の酵素により糖部分が外されないと吸収されません。競合する食物がない方が配糖体成分が吸収されやすくなるため食前が原則とされています。しかし、食前と食後、どちらで服用しても効果に大きな差はなく、どちらか自身の服用しやすいタイミングで服用するのが良いでしょう。

## 《効果発現の時間》

漢方薬の効果発現は有効成分によって異なります。有効成分が配糖体の場合は、腸内細菌によって糖が外されてから吸収されるため、効果発現に時間がかかります（6～12時間）。有効成分が低分子の場合は、そのままの形で吸収されるため、即効性があります（2時間以内）。

- 配糖体成分：センノシド（大黄）、グリチルリチン酸（甘草）、ジンセノシド（人参）
- 低分子成分：エフェドリン（麻黄）、ショーガオール（生姜）、ヒドロキシサンショオール（山椒）
- 即効性がある漢方薬：小青竜湯（花粉症などに使用）：ハンゲ、サイシン、カンゾウ、シャクヤク、ケイヒ、マオウ、ゴミシ、カンキョウ

漢方薬の成分は配糖体であることが多く、冒頭に述べたイメージが定着したのかなと思います。当てはまらない例もあることを知ってもらえれば幸いです。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。